

## 7. 高齢者福祉

多 田 千 紘

1. はじめに
2. 高齢化の現状
3. 高齢者の暮らし
4. 高齢者を支える取組み
5. おわりに

### 1. はじめに

2012年8月22日~29日までの一週間の本調査のあいだ、一日あたり2~3人の方に聞き取りをさせていただいた。そのなかのほとんどが65歳以上の高齢者の方で、生い立ちから学生時代、仕事、結婚や子育て、お祭りの様子など、暮らしの中のいろいろなお話をしてくださった。いっぽうで、私たちと同世代の方はあまり見かけず、若い人はどんどん地元を離れていってしまっているというお話がたくさんの人から聞かれた。

私の出身地でも、仕事が少なく交通の便も悪いという理由で子どもや若い人が少なくなっている。そのため、若山町5地区の少子高齢化は他所事には思えなかった。高齢化のすすむ地域で高齢者が安心して暮らしていくためには、その生活を支えるための工夫や取組みが必要不可欠である。そこで、本章では若山町5地区および周辺地区でおこなわれている高齢者への福祉の取組みについてまとめる。

### 2. 高齢化の現状

日本は、いまや平均寿命80歳という世界最長寿国のひとつとなっている。これは、医療技術の進歩や生活水準の向上によって人々が長生きできるようになったことのあらわれなので、めでたく喜ばしいことだ。しかし、この「長寿化」に「少子化」という流れが加わることによって、人

口全体における高齢者の割合が高まる「高齢化」が生じている。「高齢化」は日本全体ひいては世界（とりわけ先進国とよばれる国々）において問題視されている。若山町5地区においては、この「長寿化」「少子化」に「若者の流出」が加わることで、全国的にみても高齢化が進んでいる。

若山町5地区では2012年5月現在、男性259人、女性297人が暮らしているが、そのうち65歳以上の高齢者はそれぞれ94人、149人となっており、男性の約3人にひとり、女性の約2人にひとりが高齢者となっている。全国では、男性6218人、女性6562人のうち、男性1268人、女性1707人が65歳以上であり、男女ともに約6人にひとりが高齢者である。また、若山町5地区の75歳以上の後期高齢者の比率は男女それぞれ全体の23.5%、25.5%となっている。これは全国における65歳以上人口の比率とほぼ一致している（表1、表2）。

世帯構成については、若山町5地区では65歳以上高齢者のいる世帯うちの42%が単身ないしは夫婦のみの世帯となっている。これは、高齢者に介護が必要になった場合に、家のなかに介護できる人がいるかどうかをあらわす指標である。つまり若山町5地区で暮らす高齢者の半数近くが、介護が必要になった際、ヘルパーや介護施設を利用する必要があるということになる。これらの世帯が占める割合を全国と比較すると、若山町5地区のほうが単身の65歳以上世帯の割合はやや多く、夫婦のみの65歳以上世帯の割合は少なくなっている（表3、表4）。

**表1 高齢化の現状（全国）** 単位：万人（人口）、%（構成比）

		総数	男	女
人口	総人口	12,780	6,218 (性比) 94.8	6,562
	高齢者人口（65歳以上）	2,975	1,268 (性比) 74.3	1,707
	65～74歳人口（前期高齢者）	1,504	709 (性比) 89.2	795
	75歳以上人口（後期高齢者）	1,471	559 (性比) 61.3	912
	0～64歳人口	9,805	4,950 (性比) 101.9	4,854
構成比	総人口	100	100	100
	高齢者人口（高齢化率）	23.3	20.4	26
	65～74歳人口	11.8	11.4	12.1
	75歳以上人口	11.5	9	13.9
	0～64歳人口	76.7	79.7	74

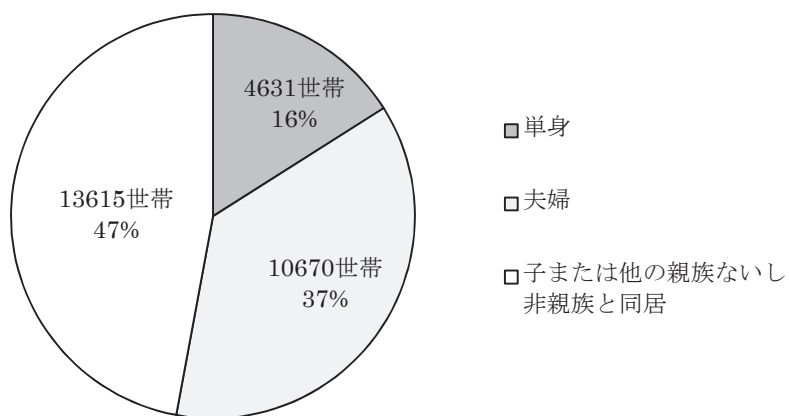
出所：平成24年度版高齢社会白書（内閣府HP）より

表2 高齢化の現状（若山町5地区）単位：人（人口）、%（構成比）

		総数	男	女
人口	総人口	556	259 (性比) 87.2	297
	高齢者人口（65歳以上）	243	94 (性比) 63	149
	65～74歳人口（前期高齢者）	112	39 (性比) 53.4	73
	75歳以上人口（後期高齢者）	131	55 (性比) 72.3	76
	0～64歳人口	313	165 (性比) 111.4	148
構成比	総人口	100	100	100
	高齢者人口（高齢化率）	43.7	36.2	50.1
	65～74歳人口	20.1	15	24.5
	75歳以上人口	23.5	21.2	25.5
	0～64歳人口	56.2	63.7	49.8

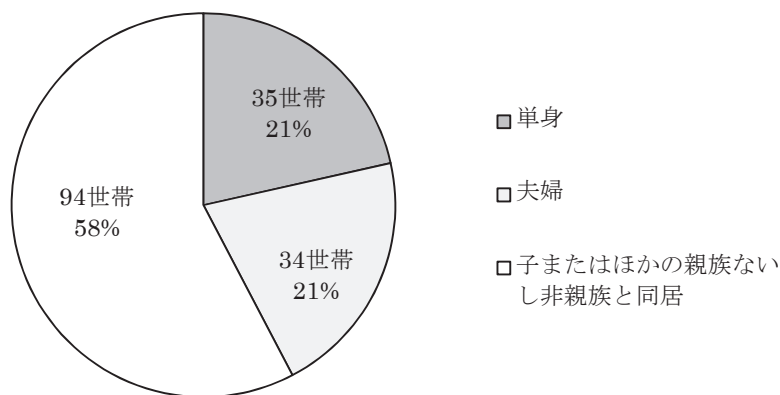
出所：2012年5月31日付の住民基本台帳より

表3 世帯別にみた65歳以上人口（全国）



出所：統計局 HP より

表 4 家族形態別にみた65歳以上人口（若山町5地区）



出所：2012年5月31日付の住民基本台帳より

Aさん（経念、男性、80代）によると、若山町5地区における人口の流出は昭和30年代ごろから感じられるようになった。珠洲市外の高校や大学に進学したまま帰ってこない人が多いようである。地元にある高校は現在では飯田高校のひとつのみであり、若山町5地区の生徒のうちのほとんどが飯田高校に進学する。しかし、なかには金沢の高校へ進学するものもいるそうだ。高校を卒業すると、大学へ進学するひとは都会へと出ていく。金沢の大学に進学するものもいるが、2005年の能登空港<sup>1)</sup>の開港により東京の大学への進学者も増えた。このようにして珠洲市の外にでていった若者は、そのまま都会で就職あるいは結婚するので、地元へは戻ってこないことが多い。

### 3. 高齢者のくらし

ここでは、聞き取りをもとに、高齢者が生活の中で感じる不便さや高齢者の団体についてまとめた。

#### Bさん（中田、男性、80代）

車を運転しない人は、飯田にあるスーパーや病院まで行くためにバスやタクシーを利用しなければいけないが、バスは2~3時間に一本しかなく、また中田に住んでいるひとは古蔵のバス停まで歩かないといけないうので大変。

#### **Cさん（中田、男性、60代）**

シルバー人材センター<sup>2)</sup>に登録していた。仕事内容は草刈り、電話帳配布、畑の片付けなどで、月6000円ほどの収入になっていた。

#### **Dさん（火宮、女性、70代）**

車を運転しないので、家族の都合のつかないときはタクシーで病院に通っているがお金がかかる。腰が痛いので、草刈りや畑はシルバー人材センターにまかせている。

#### **Eさん（火宮、女性、80代）**

高齢化によりヘルパーの数が追いついていない。高齢者むけの施設はいくつかあるが、ケアマネジャーの抱えている人しか入居することができない。

#### **Fさん（古蔵、男性、70代）**

菊花会や珠洲トライアスロン協会、天洲流吟詠会に所属し、日々練習を積んでいる。菊花会は70歳前後の男女8人ほどが所属していて、若山町の文化祭に育てた菊を出品している。珠洲トライアスロン協会では、毎年夏に開催される珠洲トライアスロン大会の運営を円滑に進めるために、休憩所の設置やHPの編集といった準備や当日の交通整備などを行っている。天洲流吟詠会には3人が所属していて、月に一度ほど若山公民館であつまり練習をしている。練習時には東京の指導者から送ってもらったカセットテープを使うこともある。文化祭では毎年練習の成果を発表する。

#### **Gさん（大坊、女性、80代）**

若富喜会に所属し、そこで自分たちでつくった漬物や梅干しを売っている。若富喜会は若山地区に住む75歳以上の女性たち5~6人のグループで、農協や文化祭、庭祭り<sup>3)</sup>などでは露店を出している。材料には、自分たちで育てた野菜や地元の湧水だけを使うことで地産地消をするようにしている。それによってコストも抑えている。

#### **Hさん（古蔵、男性、70代）**

Hさんが中心となって若山村塾という5~6人ほどの団体に活動している。そこでは週に1度ほどあつまって、みんなで漢詩など古文書の和訳をしている。

トライアスロンなどのイベントにも積極的に参加している。

### **4. 高齢者を支える取組み**

#### **4.1 高齢者向け施設**

珠洲市にはいくつかの高齢者向け施設が運営されているが、ここでは、聞き取りのなかでよく耳にした施設を中心に取り上げることにする。

高齢者向け施設の種類はおおまかに分けて、介護保険の被保険者である利用者にサービスを提

供する施設、言い換えれば介護保険が使える施設である「介護保険施設」と、介護保険とは関係のない施設に分けることができ、また介護保険が使える施設も「入所介護型施設」と「在宅介護型施設」に分かれている。

若山地区周辺における入所介護型施設としては、長寿園と美笑苑がある。若山町5地区から長寿園は8kmほど、美笑苑は12kmほど離れた場所にあり、どちらも入居者は原則65歳以上の介護保険制度で「要介護」認定をうけた人に限られ、入居者定員もともに100人で規模もほぼ同じである。両者の違いは、特別養護老人ホームである長寿園が終身における援助を目的とするのに対し、介護老人保健施設である美笑苑は在宅復帰を目的としていることである。

在宅介護型施設としては、やまびこデイサービスセンターとみさきデイサービスセンターがある。若山町5地区からやまびこデイサービスセンターは7km、みさきデイサービスセンターは12kmほど離れており、利用定員はそれぞれ20人、36人となっている。デイサービスセンターは、介護保険制度で「要介護」あるいは「要支援」の判定をうけた人が利用でき、9:00~16:00のあいだは年中無休で、リフト付き車両等での送迎、センターでの入浴、食事等のサービスをうけることができる（珠洲市社会福祉協議会HPより）。若山町5地区でも多くの方が利用されているようだった。

若山地区周辺での介護保険とは無関係の施設としては、民間経営の鶴の恩返し宅老所がある。こちらは定員が9人と小規模であり、家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの生活リズムにあわせたケアを行うことを目標としている。しかし、介護保険がきかないので介護保険施設に比べると利用料金は高めである。

これら、とりわけ入所型介護施設については、高齢化による施設の不足が問題となっている。長寿園は待機者数が111人（平均待機者数114人）、美笑苑は待機者数が40人（平均待機者数55人）にのぼっている（平成24年10月30日時点、株式会社クーリエによる調査）。そのためこれらの施設の入居者は原則65歳以上とされているものの、ほとんど80歳を過ぎてからしか入居できないのが実情のようだ。（Iさん・60代女性・経念）また、Iさんによると、平成25（2013）年4月1日より事業を開始する第三長寿園の職員を募集したところ、職員ではなく入居者の応募が殺到したそうで、施設不足の深刻さを感じた。

しかし、介護施設は整備コストが高いこともあり、入居希望者全員への供給をしていくことは難しいかもしれない。24時間体制の見守りがあり、必要に応じて訪問介護や訪問看護が入るといった「支援付き住宅」をつくっていくのもいいかもしれない。

## 4.2 民生委員の活動

若山町5地区では2名が民生委員として活動されていて、それぞれ火宮・中田・向・（延武）、

経念・古蔵・（鈴内）を担当している。おもな活動内容は、担当地区の 75 歳以上高齢者宅への見回りと、月に一度若山公民館で行われる定例会への参加である。

見回りのときには、あまりプライバシーに踏みっていくことはよくないので、畑が放置されて草だらけになっていないか、郵便物はたまっていないか、冬は雪どかしがされているかなどをみて、家の外に出た形跡があるかを確認しているそうだ。もしなにか異常があれば、家に訪問して様子の確認をする。また、月に一度は元気な姿を直接目で見るように心がけているとのことだった。

定例会は、毎月第 3 ないし第 4 火曜日に行われている。若山地区の民生委員 7 名と民生委員長、社会福祉協議会の職員 1~2 名、公民館職員 2~3 名、珠洲市役所福祉課職員 1~2 名が出席し、活動報告や研修会等の連絡をしている。民生委員は、このときに社会福祉協議会からおむつ券を配るようになどの連絡があれば、その場合はひとり暮らしに限らず担当地区の 75 歳以上高齢者全員に配布する。またこのほかにも年に 4 回くらい、おはぎやティッシュ、らっきょうなどを配って、そのときに高齢者に体調は悪くないか、困っていることはないかなどの話をきいているそうだ。

民生委員は各担当地区の総会で推薦によって選出され、その後本人の了承をへて決定する。任期は 3 年で、若山町 5 地区を担当しているお二人はどちらも 5 年目、2 期目であった。民生委員には年齢制限があり、1 期目は 65 歳以下の人で 2 期目以降は 72 歳以下の人と定められている。

近年の高齢化により、民生委員一人当たりの負担は増加傾向にある。そこで、珠洲市では民生委員の補佐としてよりかんたんな見守りを行う地域福祉推進員の数を増やし、民生委員の負担軽減につとめている。地域住民の側にたって高齢者への手助けや相談を行う民生委員や地域福祉推進人への期待はこれからも高まっていくことが予想される。

## 4.3 珠洲市の取組み

### 4.3.1 福祉課の取組み

職員の方によると、珠洲市では、福祉課が中心となって高齢化対策に取り組んでいる。ひとり暮らし高齢者を中心とした取組みとしては「老人福祉連絡員設置事業」、「緊急通報機器設置事業」、「配食サービス」がある。

「老人福祉連絡員設置事業」は、おおむね 65 歳以上のひとり暮らしおよび高齢者のみの世帯で見守りが必要な方に、市が連絡員を設置して安否確認や生活状況を見守る。現在珠洲市で 6 名が利用している。

「緊急通報機器設置事業」は、おおむね 65 歳以上のひとり暮らし、またはこれに準ずる高齢者で身体に不安を抱え孤立状態にある方を対象に、月額 500 円（通話料無料）で自宅電話機に緊急



通報用のボタンを設置するというものである。緊急時にこのボタンを押すとサポートセンターの看護師につながり、そこから救急車の出動要請や身寄りへの連絡ができるようになっている。珠洲市では20名が利用している。

「配食サービス」は、おおむね65歳以上のひとり暮らしや高齢者のみの世帯で、買い物や調理が困難で低栄養などが予測される方を対象に、昼食時間に合わせて弁当を配達する。弁当は長寿園と珠洲市社会福祉協議会が提供しており、受給者の自己負担費は長寿園のものが汁物つきで600円、社会福祉協議会のものが汁物なしで550円である。珠洲市ではあわせて141名が利用している。

在宅福祉サービスとしては、「紙おむつ・尿とりパッド引換券の交付」、「ねたきり老人等理髪サービス事業」、「自立支援型住宅リフォーム事業」を実施している。「紙おむつ・尿とりパッド引換券の交付」事業は、市民税非課税世帯で要介護4または5と認定されている方を自宅で介護している方に月6250円分の紙おむつ・尿とりパッドの引換券を交付するものである。社会福祉協議会の助成との併給は不可となっており、珠洲市では29名が利用している。

「ねたきり老人等理髪サービス事業」は、在宅で3カ月以上寝たきり状態の方に理髪サービスの利用券を1回500円で年2枚まで交付する。珠洲市では24名が利用している。

「自立支援型住宅リフォーム事業」は、要介護2~5の65歳以上の高齢者のいる世帯および身体障害者手帳1~2級の重度身体障害者のいる世帯で、かつ生活保護世帯および市民税非課税世帯に限り、住宅リフォームのための助成金を交付するというものである。

そのほかに「ふれあい入浴事業」として、65歳以上の方に市内の公衆浴場が100円で利用できるチケットを年6枚まで交付している。これは珠洲市で640名が利用している。

### 4.3.2 珠洲市の新しい取り組み

平成24(2012)年9月からは総務課危機管理室が中心となって、新しく「ちょっこり・たすけ隊」事業が、飯田・若山・蛸島の3地区で実験的にスタートした。これは、平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、市民の大部分が海に面した土地に住居をかまえる珠洲市においても地域内の防災力を高めなければいけないと設置されたものである。具体的には、地域住民のなかから有償ボランティアの「ちょっこり・たすけ隊員」を募集し、65歳以上ひとり暮らし世帯や身体活動に不都合がある方などいわゆる避難弱者を対象として、掃除や買い物などの日常生活の中のかんたんな手助けを行う。そのなかで地域内の状況や災害時や避難時に必要な情報を収集し、その情報をもって地域内の防災体制や防災力を向上させていくこと、地域内でのコミュニケーションづくりを進め、いざという時の繋がりとするのをねらいとしている。

「ちょっこり・たすけ隊」事業の主となる目的はこうした防災であるが、高齢者の話し相手と



なったり、生活の手助けをしたりといった福祉的な役割を果たすことも期待されている。また、いままでヘルパーに草刈りや掃除などを頼んでいた人たちも、そういった簡単な仕事をちょっこり・たすけ隊に依頼するようになり、ヘルパーは空いた時間を他の高齢者への介護やヘルパーにしかできない専門的な仕事にまわすことができるようになるので、結果的にヘルパーの不足という問題の解消につながるのではないかと考えられている。

ちょっこり・たすけ隊の利用チケットは5枚つづり2500円（1回500円）だが、初年度にあたる平成24（2012）年度は試行期間として無料で配布している。1回あたりの費用500円のうち300円はたすけ隊員へ、残り200円は提携している公民館運営費にあてられる。平成24（2012）年9月における若山地区での利用者は4名、たすけ隊員は25名であった。

「ちょっこり・たすけ隊」事業を推進していくなかで、難点となるのは民間企業との兼ね合いである。例えば、タクシー会社の業務を妨げるような病院への送迎や、シルバー人材センターの行う機械をつかった除草などをすることはできない。そのため、「ちょっこり・たすけ隊」が請け負うのは、その「ちょっこり」という名前の通り本当に簡単な仕事に限られる。具体的には、簡単な掃除、植木の水やり、洗濯、布団干し、ストーブ・扇風機の出し入れ、電球の交換、少量の買い物、薬の受取り、話し相手、などである。平成24（2012）年11月現在のところ、除草や畑の水運びの手伝い、窓のサッシの掃除、買い物の依頼が多いようだ。また、冬には雪おろしや雪かきの依頼が増えることが予想される。

高齢者からの依頼の電話をうけ、市で登録されているたすけ隊を派遣することは、各地区の公民館に委託されている。若山公民館の主事さんは、水運びやサッシの掃除のような力仕事には男の人を、買い物や洗濯などは几帳面な女の人を派遣するといったように、依頼の内容によって誰を派遣するかを決めているという。また、なるべく隣近所の家の人を選ぶようにもしているそうだ。

利用者のひとりであるEさん（火宮、女性、80代）は、窓のサッシの掃除を依頼したそうで、広い家でひとり暮らしをしているので、こうした手助けをしにきてくれるのはありがたいという。話し相手にもなってくれて、さらに今年度は無料なのでどんどん利用したいとおっしゃっていた。

今年度は3地区で実施されている「ちょっこり・たすけ隊」事業であるが、珠洲市の担当者によると、来年度は10地区まで拡大し、いずれは100m圏内でできるくらい広めたいと考えている。また、そうなると公民館の負担が大きくなりすぎるので、区長などにも仲介を頼むことも検討されている。

「ちょっこり・たすけ隊」に対しては、新しい取り組みであるということもあって、地域の方々からは懸念の声もあがっている。Iさん（経念、女性、60代）は、ちょっこり・たすけ隊が有償であることで、いままで無償で手助けをしてもらっていた相手にもお金をわたさないといけない、

と高齢者が考えるようになるのではないだろうか心配している。これまでは、なにかしてもらったら次のとき、例えば相手に赤ちゃんが生まれたときにお祝いを渡す、というようにしてきたのだから、お金を取るのではなくそういった方法にしたらどうか、とおっしゃっていた。また、Jさん（向、男性、70代）は、普段から近所でたすけてもらっている相手が、たすけ隊員として他の人の家に行ってしまうことで助けに来てほしいときにいない、という状況になるのではないかと心配されていた。

#### 4.4 民間企業による取組み

若山町5地区の人々のほとんどは珠洲市飯田町にあるスーパーで日用品の買い物をしている。若山町から飯田町までは8kmほどの距離があるので、まとめ買いをする人が多い。そのため飯田町のスーパー、はまおか・ダイマル・シーサイドでは買ったものの配達サービスをおこなっており、多くの高齢者が利用している。はまおかでは買い物1回につき200円、ダイマルでは1回につき100円、シーサイドでは年会費1000円で配達を行っているそうだ。さらにシーサイドでは介護保険の被保険者は年会費を無料にしている。

タクシー会社では能輝人という車いす専用の個人タクシー会社があり、往復1000円で病院までの送迎を行っている。

#### 5. おわりに

これまでおもに高齢者をサポートする取組みを中心に述べてきたが、私が聞き取りをする中で感じたのは、元気なお年寄りがとても多いということだ。菊花会や若富喜会、若山村塾のような高齢者による団体も数多くあり、トライアスロンなどのイベントに精力的に参加する高齢者も多い。「若い力で地域を活性化」という文言がよくみられるが、地域を活性化させる力があるのは若者に限ったことではないだろう。高齢者が自らの豊かな知識・技術・経験を生かして、これからも元気な若山町5地区の担い手となっていただきたい。

高齢者に対して、ということに限らず、なにか手助けやサービスを提供しようとするなかで気をつけなければならないのは、これらが与え手からの一方通行にならないようにすることだ。ただ単に取組みをどんどん進めていくことを考えるのではなく、受け手のニーズや意見を聞き入れ、それを反映しながらよりよい取組みを展開していったほしい。

最後になりますが、一週間の本調査と文化祭でお話を聞かせていただいた若山町5地区、公民館、珠洲市役所の皆様に心より感謝を申し上げます。私のたどった質問にもやさしくお答えいただきました。お家にお邪魔してその地域に住む人たちの生の声を聞くという経験はなかなか

出来るものではなく、このように報告書にまとめることができたのも地域の方々のご協力のおかげだと思います。ありがとうございました。

## 注

- 1) 平成 15（2003）年に石川県輪島市に設置された地方管理空港。毎日東京国際空港発着の合計 4 便を運航している。
- 2) 高齢者等の自主的な団体で、地域ごとにひとつずつ設置されている。臨時的・短期的な仕事を請負・委任の形式で行う公益法人社団。
- 3) かつて若山町では、農家の豊作を祈って、田植えのひと段落したときに、各集落の大農家（おやっさま）の土間庭に輪になって村の老若男女が唄い踊りあかした。近年では庭の中央に臼を据えてその回りを踊る「庭おどり」を復活させることで、町民のふれあいと地域の活性化を目指している。